

二五
一

十

訓

抄

上



十訓抄序

史世に而人あはくそ一少兒やまといはれりてきくそ
 ばやきふとむる賢をほれりて思ふは失ふ
 る今あふとく聞見れとてこれ昔人乃相説を稱
 てあひれこれ禁乃中より柳を二乃而と説
 ありてそ方より而禁乃中より先思ふは失ふ
 せ兒はほきいけをまひりてさうせ少年をく
 花よりてん戒はくあふりてなと一乃の文はくあふ
 十後乃名とさうちと十訓抄となりて則三歩は文
 て三餘れ窓りといむとなりて初和字をさやうと

かあす一と筆は費さう中凡その見やそん
 して戒れとよゆなりあつ例候と次やて廣く文
 ちとさうさう次さうむとれそちうくらせと戒
 れとよゆなりあつてあ戒をさうむとさうと戒
 承さうさうと實れあつとあ戒をさうむと戒
 承さうさうと組はあつと戒をさうむと戒
 戒とあつとあつて風月れとさうとさうと戒
 とさうとさうと戒はく曲小戒はく戒はくあつ
 とさうとさうとさうと戒はく戒はくあつ
 かあつとさうとさうと戒はく戒はくあつ

此を中梓引る人ひとし難しそのまか多しなりわく
志は行ふ多しハ行へるもむきくなく柳くや
れはすむむの起を起す口業乃因と云ふれまて
賢良の諫を多しを佛教にせしむむくふにあり
とくとも志のふ法法實相の理を衆はく小教を
俸治れ戲還く僧佛宗れ縁より成り又とくわ
とくいありと勸を多しなり法門にふあり
これくも多しなりわくわくわくわくわくわくわく
建長もこれなりわくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

とくわくわく蓮乃くそふと西乃く雲ふれわくわく
佛乃くひふふふとありとわくわくわくわくわくわく

可忘操振筆事

可離憍慢事

不可侮人倫事

可誠人上多言事

可摺朋友事

可存忠信廣直事

可專思慮事

可堪忍諸妄事

力九
力十

可停怨局事
可廢才口未方快燕業事

十訓抄卷上

才一可定心操振蘇率

或人々を急ぎとせしむるを捕らへしなりとて不可嫌
文三云山をいふに悦とゆつて中いなくあつて誠にす
海を廻りあつていふに悦とゆつて中いなくあつて誠にす
いふに明はれいと云ふてあまはねと昔これ不嫌まゝ
あつて曲とて短とて用ゐるはなり又人喰物成きぬ
とあまはねとあつてやあまはねとあつてやあまはね
賊とてあまはねとすといふにあまはねとあまはねと
賞とすといふにあまはねとすといふにあまはねとす

竟のまゝとん端と用事れ新と等くらさるる多きべ
細かくなれまゝは用ひし多むりれて入るなり
するのうとさき

期々やなれまゝのふわさをとれ

おれうとつめをあひそ

おれを天智乃所分りてあれ我民もやうくても
そのりうとるきとまゝれ風俗とと撰定しきりて
とれ幾前の國れ風俗乃曲くうむりて我民の
神のちとくくられりうむりてきあなりと
もれが所内くくきりとも現合しきりては

目出曲せむしやうふとてよふとせん
とすなりとて此とかくふとてしきりて
上下猶といふと地味れとのふ抱つて彼うとて
なり地味れとて神とて信公使りとてあれ相
目とてあうとて定れり現合とていひ

宗徳院御殿くつれをきいてのちにいれは恒
それか外きとみり外もきくまゝとて達如といふ
す紀賢の妹乃被院く作らまゝに多むり被國(さう
ては前のとていひ)とて現大正とてあてて
わうふふなりて思えうる水戸とて人れ目りあり

りぬしをふしとて足踏を草一うはるありて人
 者も世をいふとこれなり後周の配者月一徘徊せ
 相のまをせうらとてくやありんをたぬらうとてう
 せうりらむとね乃瑞くして見え入り今とてうの
 会ふふらんうせられ

船くわなのもつゝあふ入る

三 次 考 證 考 方 考 一 考

いねをかきわくふりては機も通と使すと云うて是も
 羽くやふいあつゝくつあふも
 けうすあふれきん紅のこをそく

修くくわん統ふかひり
兼てとらありさると思ん
兼の次ふ是とす

邵

伯政乃

やうな

則

此本棠錄

[illegible]

者流涕杜預名之曰墮淚碑具排韻大全

夫人之懷子也記之于心也而不可忘也

懐きとてたゞふりてふくむ我恩とて報

平々ろろ廉頗れんぱと李之りし唯ただ崔さい

猶如^{ちやうじやう}くわんあむふりて六款と云はれり然るに恒々

月まじりて随ふ畜はとふ事とわきまを祈る

や我と悲うら失われぬから一々令えうそ
長谷守れれく小ありて病しう歌あふととあるまじと
你用さうて量量とここのふ守れ思念のわううと云
れ二三日わうもろく思念のわう小守跡と云うれ
おとうれうろふ人れ蛇のうううううう蛇跡の世を
うもて老うさむく一ううと蛇跡をかくてううれ
らと蛇と蛇うううううううううううううううう
足見戒ううれううううううううううううううう
人うかうし恩とかくうううううううううううう
とせううううううううううううううううううう

せんふあうあうううううううううううううう
行れ水子うううううううううううううううう
小ううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううう
かえりうううううううううううううううう
とてううううううううううううううううう
わうううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう
とれううううううううううううううううう

[illegible]

弓矢のちとれとそわれ君と人といふは
 ちとれとてみし人といふは出づる假
 中一假中一と前ら此はまはまはの
 わるゝとれとて人なりとてとつゝ
 かくとて明とれありとて山の
 蛇一二百式と百とらひまといふ
 とはいふをひつゝとて見とる目
 まはなむいふをいふとてみし人
 こゝろをみしとてみし人といふは
 三百とてみしとてみし人といふは

[illegible][illegible]

ぬきうりしを法師の内殿のまきもまけ目録見ある
小地俣海場より木々も実樹とれりそ天か葉の所
みれ夜と小れつまずる賢文珠左大臣一府より多し
蔭重元之殿のしく帝教を新神八部堂と今
園境より加葉河野等れ大比呂元一面より十六金
乃王冠城地よりく茶飯一人元之殿より推れられ
ありてかろく此も四方よりちて天人元よりちて
微妙なる系族をよめ来葉花よりて是深れに
宮よりよめしと人よりて海とみえしと及よりて志より
いよりくまゆい小せもあふと具ありとねむれり

れ陽相とるれり 在世説人初これよりちては心
く起る隠れあきにくくい陽作のちを骨と成
わいゆもと今よりんと花よりちて重なる命海
大恩教主杖を来と唱く茶飯許すかといふ
花よりくかたれれと記とありける大にがれま
う小くせぬ多れと失ふとくくおほりつとせとわさ
記まといて足ぬとせんとありけるふれ葉原なりわさ
しれりちとわつる記なり録も少れかゆりあれ
のかとわくこれ経師出するよりちりあきとせま
しとてあふる海よりいそけとけかよりあふる小

せり智なれを秘くあつて人々す
と海ありと春始里泰山より心けなりより俄く
舟をわいて海の上より立りて西行とてまき
いなり船板より信をさめ家々をばはるまじとよりまき
りよりまきえと道の人より人より信をさめ衣をひてま
或人馬より水烟より城と市に一の光てと城よりり
これいとはと海なり信をさめとより信をさめと
わをたなり人より心標とてさまり日轉とわたり
人よりりといふなりこれ信をさめとより信をさめと
人よりり信をさめとより信をさめとより信をさめと

小過とてとあつと人よりり信をさめとより信をさめと

楚思淑花雲水冷

高色清脆管絃秋

けしきを清乃色吹少く一と誰や人よりり信をさめと
なりふりて家々大納とて信をさめとより信をさめと
きくなり

ささむむとてはなりとよりり

れどくまのこまきとよりり

はれは延びてとて亭子院分令よりり信をさめと

やがれとん帳れ紐しむを花竹の傍にまゝりて
うづもひいてれ院沙羅うづもひいてる沙羅
中ほふふふふふふふふふふふふふふふ
後頼朝卜落く云白河院より遠きれ新章の里
月へうれ事ふありん女房上人の身なり
あまふふふふふふふふふふふふふふふ
へふふふふふふふふふふふふふふふ
女房の舟のうづもひいてるふふふふふ
れふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふ

足ふふふふふふふふふふふふふふふ
ちる沙羅のふふふふふふふふふふふ
或女房のやむふふふふふふふふふ
そふふふふふふふふふふふふふふふ
せふふふふふふふふふふふふふふふ
ちりけふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふ
沙羅のふふふふふふふふふふふふふ

後
後河院沙羅内て月ふふふふふふふふふ
後河院沙羅内て月ふふふふふふふふふ

月とあそびいづこやかし

廣味おなり下しあう人まじり居れを煙とてさうて
くればあそびと長月ながつきの如月ごとつきのわくをさうわあま
あひりあひりりさくさくさくあそびあひすりあひに
あひあそびくさくさくあひあひりあひりりさくさく
れ氣あひりさくさくさくあひあひりさくさく
りさくさくさくさくあひあひりさくさく
すさくさくさくさくあひあひりさくさく
りさくさくさくさくあひあひりさくさく
凡の遠寒とくさむいさくさくあひあひりさくさく

事とせし花もさうあやかりとそなふさくさく

てさくさくさくさくさくさくさくさく

後ほ大音おほおとのさくさくさくさくさくさく

わくさくさくさくさくさくさくさく

りさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさく

わつて廟へあつてくちかく一の房へあつてや
てなふとてきつて後をせやといふなりとて
りふつとてきつて世の中へあつてあつて海
を渡るなりとて後へやきつて足りていふなりとて
きつて海へとてや鳥羽子とてきつて海へとて
あつてとて内へきつてやとてきつてあつてとて
いふなりとてきつて後をせやといふなりとて
きつて

一糸脱ゆ位乃と以客方中那の象れ試糸しとぞり
いりてわさしんえれとあきつてさやうく通く

まゝ人しくつて竹乃臺の下から興竹れ
 枝と折て竹より竹を多くも取り人くあらむ
 りて扶より後武末のより小竹乃枝と云ふとを
 因院宮位とかとくくくくくくくくくくく
 ぬきいし清覧一くくくくくくくくくくく
 句じと竹より竹より竹より竹より竹より
 一はくくくくくくくくくくくくくくくく
 竹より竹より竹より竹より竹より竹より
 樂天を後に出し一は竹より竹より竹より

少内侍子とてわけても一人して後官を正位
中納言命を六十六歳とてよきこととて初めのこゝ
又初定ふりて法花八軸と一夜けうらふ御備を
れりりる中一人あゝさ梨多うりや唐乃后わ
現るゝ此身そそれ國乃うす一カをそはるりして
目本より雅忠とふいゝさくちりちとほふめて
おまけわさるるさう一唐乃門よりとるさ唐
乃りりふや中乃あゝ事公乃そいあゝりりふ人
れや心くゝりてささりえさうりりふ氏部は理に
てささりりりふてきて事れぬ事さして唐乃ささり

れを人日午より何の音と共一初いふはさうりり付
い美ん小の白て波さうりりさささささりりりりりり
快とけ匡房とささささささささささささささささ

雙魚難逢風池之浪
扁鵲豈入鶴林之雲

いふとけ和漢とささささささささささささ
及正天皇かゝれぬまゐるさささささささささ
留子ささささささささささささささささ
まゝとて記されしとさささささささささささ
ささささささささささささささささ
ささささささささささささささささ

とて書けりとも衆をいふ事ふりて下りたりや
小世免す人々をいふにわたりてすなり
十誨なりし下の事なり
上東門院乃湯方々單引人今新なり衆
院衆式ありけり衆をいふにわたりてすなり
ぬ名を仰とわたりたり衆をいふにわたり
りそとてはあきつたきいりてとては
信りてとてはあきつたきいりてとては
可成いとてはあきつたきいりてとては
人々衆なりとては

東極大殿乃湯河院乃湯方々衆をいふにわ
衆をいふにわたりて今日湯運なりとては
りそとてはあきつたきいりてとては
て目よりいふにわたりてとては
そは衆なりとてはあきつたきいりてとては
す衆をいふにわたりてとては

わの衆をいふにわたりてとては

衆をいふにわたりてとては

こりてはあきつたきいりてとては
衆をいふにわたりてとては

わづ人又奏候と云

妙壽院入道大政大臣七依よりぬ海内按察使以質買の
多々物々々の如く扱と何のゆゑにむと申さ
りしかども御事ハかくて驛康招けし極と録し
出給ふもかしこ奏使候とかくて其由録し給ふと云
大臣院と云せしれりより現達いさくさうに作
ゆゑと云ふとそけりも治めく治めく之類と恩と
ふ衆と云ふと還成樂と云ふより人々をせし
かゝるゝ又及資買配不りかゝるゝ又及資買配
とすも修りきりきり信濃と云ふ一平岩河川と

うゑいさよりより一帝威なりより一信濃と云ふなりと
こやと云ふなりより一信濃と云ふなりと云ふなりと云ふなりと

成範民部卿と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと

さうと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと

さうと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと

さうと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと

さうと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと

とて焼^やけのうれわめ^うるゝや又字^あ次^じをらてそと
そ又字^あいゝと書^かく湯^ゆ炭^{たん}にうへてあられ
りや唐^{から}もてえゝと字^あ一^じと也^や事^{こと}とせ^し事^{こと}あ
りや有^あかこ^こり^り衆^{しゆ}

小^こ形^が内^{ない}府^ふ賀^があ^あん^んと^と車^{くるま}の^のぬ^ぬく^くゝゝゝ
一^い条^{じょう}の^の人^{ひと}の^の出^でゝま^ま人^{ひと}り^り物^{もの}足^あ車^{くるま}を^をゝゝで
透^とろ^ろと^とか^かり^りゝゝゝい^いゝゝゝ車^{くるま}の^のぬ^ぬく^くゝゝゝ
い^いゝゝ日^ひ代^{だい}下^かゝゝゝゝゝ可^かゝ式^{しき}ゝ便^{べん}宜^い乃^のゝゝ車^{くるま}
ゝゝと^とい^いゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人^{ひと}を^をぬ^ぬく^くゝゝ車^{くるま}を^を
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人^{ひと}と^と煩^{わづ}は^はゝゝゝゝゝゝゝゝゝ車^{くるま}と

ぬ^ぬゆ^ゆと^とい^いゝゝゝゝゝゝゝゝ内^{ない}府^ふれ^れゝゝゝゝゝゝ
車^{くるま}を^をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

首^{くび}西^{せい}八^{はち}条^{じょう}の^の力^{りき}を^をゝゝゝ便^{べん}賀^がを^をゝ日^ひ一^{いち}条^{じょう}東^{とう}内^{ない}院^{えん}
乃^のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝと^と書^かて^てわ^わゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人^{ひと}の^の便^{べん}は^は不^ふ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 夫と云ふをとりて院司として同進の位を授け
 たりて見物せらるる御女御等して作男の
 目録司の小使として衆を度ゆつあまらざる
 けくとして只見ゆらんふいふをあらさねども
 ややくるんふあらと礼をいしてさるる但院の
 物事見ん下りて分かつてゆきしをいふ
 わるゝとして沙汰をうてゆくさうに院所
 現わさるる候とてふくく度いゆきしを
 かうして衆を度人れうまいにたに相あ
 るふあう人をもりてさる人をもりてさる

魚イサやうに戯たふれをふれまゐらうとれとれ
 くうきひくわれをうれうらふうす記者
 れんてんし物モノをともめなり
 かれともかたなりしきかやうきうにわ
 わすれられぬふれなりとあひい戯たふれ
 としかりし物なりわあこどもめ
 ありあふふなりてうなりは決きなり
 ばかしくとも人ひとをうれふ人用もち
 けくはれけくうんとあふなりと事こと
 けく失あつれとくうらあふまいふと紙かみ度ど

一人斗を相具する力と物々中門のふれ
 かやうに各々の力と扱て南庭をうりて
 ぶと前目義家かひを張とふしと云り城必を
 不中此より張んと是ゆうと云ひ元とせよ
 是と云ふれと此小報色八幡屋のかり
 我々彼れと云いと云て忽と云て
 力と云ふ小報色と云うと云てと云ふと
 是れ小家と云ふれある所為にみし人
 おありと云ふ人と相具しと云ふ見
 武吉と云ふ人として云う

平不院傍心中工宰相
 常ハ内事内務省
 有仁宰相中中務省
 清花ありり清和天皇
 弟也房水琴水琴
 く華蒙氏華蒙氏
 く思ふ方思ふ方
 やうい偽正偽正
 清花の母清花の母

かゝるうき世の終とてあはれきり
大長あはれとてとてとてとてとて
ふふふふふふふふふふふふ
川へゆきし日衆大木の馬帽子とれとて
うき世の終とてとてとてとてとて
いふふふふふふふふふふふふ

を以乃身代とて民戸に定家宮内
て一雙といふれとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて
わの河後奈極極政文内とてとてとて

いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ

わがはまのわがはまのわがはま

わがはまのわがはまのわがはま

いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふ

ふぬら花かく見えてぬらとや門威く
久しき竹のす日比と上ふとほきうき
つきとかくういふふすいとこそ目かぬ
れとゆきとすうとさくみとれきまき
く面うと忽と驚てしとれく小枝うぬ
ちくく板名玉腕とさ具名とて竹ふり首
泰来陽の娘皇帝とるるまけり色愛
一もふいぬるるは逆心とほくえふり
極人也歌家なるふりてりさーとわく
いふとと

天徳奇令と情雅に位海師と勉すり
或方ととあわすて外書声かぬ
一皮肉の記くもるれと上右れに
人とりととほきりり

大東大下飛居云

楊梅深大納と歌非卿をわくういふ言

矢とそいぬむいり神世月の比或まき一

いふと神意のかとあきめ居まきと物うき
続うととれのとさくうれいとあ新色と
とれと車れうととれう入とのこま
ちくく次車仲とわかき路やとゆき

中おわつて終りつわぬ處乃々ある湯とい
 ぬ人の常々わづらひきこゆへに返したるとい
 へばこれへさふくをせよとある三尺の親を
 造供類をせんとれりいゆいといとせられり
 杉ノ乃乃處れさつてけりりりりりりりりり
 せふさ久くそそ三尺の親すといりりりり
 せんとかといふ人といひれりりりりりりり
 さい入るる返りてかーかーかーとせられり
 といりりりりりりりりりりりりりりりりり

泰子元勳婦子 泰子院在母保子院房

高陽院のれがさ町殿の東向の車とせ
 大なるなるなるなるなるなるなるなるなる
 わるる人なりて内なりりりりりりりりり
 たりりりりりりりりりりりりりりりりり
 かりりりりりりりりりりりりりりりりり
 たりりりりりりりりりりりりりりりりり
 まうてこれなりりりりりりりりりりりり
 かりりりりりりりりりりりりりりりりり
 かりりりりりりりりりりりりりりりりり
 かりりりりりりりりりりりりりりりりり

わきけはれ随身あは候ふはよくとも
ふけりてんとなきといふまゝよく
からむゆゑハ花よくあけよく南さき

去依別宿道^{いん}はとふ志^{あつ}ありけり源氏傳家^{げんけ}めを以
てこれなりとさうに連方^{れんぽう}こたへて花十月前^{はなじゅうがつまえ}
までわたりぬれしころより久きまじく此處
より花あやめで志^{あつ}ありけりやアガヒ堂^{あがひどう}
のうらむいとくぬれけりて御前^{ごぜん}く
いふ海^{うみ}よりしてあていぬれけり八月申^{はちがつしん}廿十日

へりふりてきくし我れ唐衣くやわぐし
 女おんななうしりて下せといふむく四よ作しまひ
 下しりくやふねたすれといふ毎まいし年
 夢いふぬきて清きよくあらうりてはるの
 う歩あゆ風ふうれうしりてさけみといひけし
 そとをせぬてぬし折おゆら路みちあらうし
 とれしうらやうさるを花うけし花は
 いひにむしりてゆきゆき車くるまのれし
 ちりちり花はなはねし女おんな官くわん出い来きといひくし
 かしりてひねくしうさるて愛あいしといふ女おんな官くわんす

へりつゝあらけしきふあやを
 とよそ人くわうわなれあふふ書戸
 をさうわなうらうらと急ぐれや
 りや也これとてくまのねあふやあ
 しはほもたれいならむやうわんを位
 うかむ祿つられて書戸のねもあふゆと
 之を四へ入る人といひなりや入るやつ
 もろぬ妙となれば居れうらうらとあひだ
 ほろろけあふう陽前乃風来れ田果う茶せ
 くたりしませハ店人としはいいかとれそ

くも花くふぬつ花なりとあるやわかりの
 ちまふんとてうとまふくとうひてしん花
 やとそひち海乃うととまひ候ふとわき
 うんちりうとて海をうやうてそふてこの
 かりかなれふくあてとてうちわのまふ
 道清ゆとれうすうち海とてとて男とす
 いあひとてわくふ花なりとて候ふとて
 ととれあすうとてとて候ふてうやと
 とわをふとて花と候ふとてくくうとて
 うくうとてあふとてうとて候ふとてわ
 とてわ

也房われびりーやいひてうらうらきて奥へ
く入るゝれ落子^三形さゆてくはくうらう
もくふふとてなうらゝ葉とやとまう^三形と
板をわれうてわふとわてとやと
とてれてあをわくうらーれね^三とわ
さうとてと落也^三不れ^三氣色く^三と似^三うら
や房れあまひとさうとて好色とめうら
の男れあゝあゝとわあゝとわくうら
い道はそれとあゝとて或まれば後酒入る
んを後侍とやうて大内れねんうらうあす

といされうまはう^三終^三さしとや^三終むてなれ
車く^三れ^三思^三う^三終^三う^三と^三思^三う^三車^三二^三と^三あ^三そ^三
う^三人^三れ^三と^三思^三う^三う^三い^三な^三る^三后^三の^三れ^三す
は^三れ^三り^三死^三て^三あ^三れ^三落^三と^三う^三ら^三あ^三る^三と^三落^三
あ^三う^三て^三ま^三も^三れ^三う^三と^三や^三同^三白^三と^三う^三れ^三
ー^三う^三あ^三う^三と^三終^三と^三思^三う^三沙^三随^三身^三と^三思^三う^三
と^三わ^三れ^三う^三て^三車^三れ^三ね^三と^三あ^三れ^三と^三や^三れ^三
と^三う^三う^三あ^三う^三う^三い^三か^三ら^三う^三う^三い^三と^三不^三便^三
か^三う^三う^三い^三と^三あ^三れ^三と^三の^三う^三と^三と^三
あ^三む^三う^三や

力成山寺院ハハハヤセガキ

やうなやうにきこえたりといふ如くにのぞく
 りまは父乃ていかに武山寺より告知
 とし花もつらつら中有のたいてやすら
 うとちと津吉よりいふまゝ之さや
 い花さう坊々中者といひ必可なり
 人ともふそふそ乃て之を廣せし中
 へわたりやあそびます人もあつて
 甲子年四月九日
 無資根來住中間無取止あり

やういふ城をてゝ世々ハ萩女郎萩落
 ちて来たる相成此中へさういふとわは
 何の者かといふとふふとさういふと
 又さういふとさういふとさういふと

源仲兼下野守を立國の司とし便書とら
 と親事司ふ人をもあはれり可
 い元とくくしにせむ世に於て
 出る二所より外と人をしらけ
 る人しりれく不使なりともあはれ

[illegible][illegible]

くもるさかやとおもふ人乃ソひなせり
その影にわすれず不冷ハ中か向失渚
とせしとくくしむ
近き中津つ橋の夕光眠遅覚不周窓とを詩
とけしとぬいといくちかくゆとれこそ
かゝる世にせしをまゐりくちかく
又詩云くもるさかと行く事いとわづら
何れ後心そ白河院多ね々御會し月の中
あつ月とくしむしむし天愛れおかし
それり中津つ橋の夕光眠遅覚不周窓とを詩
とせしとぬいといくちかくゆとれこそ

月自家山道我来と化て山道と云と云
るれりか所のことくちかくは日暮なり
ととにけんの中將福一のちね長あき
をけしふかち又新度と云と云と云
とくもくしむしむし天愛れおかし
わづらふかちと云と云と云と云
乃云とくしむしむし天愛れおかし
くちかくは日暮なりと云と云と云
あきちかくは日暮なりと云と云と云
白河院中津つ橋の夕光眠遅覚不周窓とを詩
とせしとぬいといくちかくゆとれこそ

玄時林り深減り中ニケ度之今也又客と

何人きにあつたはれものゝそいふ

近江守有永乃名常能長に其後を司也

此内同戸ありて事とをこかいけり

事とて前よりわたりけり

二人居倒いもさうにせしむる事つひ

りて光りあはれみさしめり

侍衆小退りて

師頼心多し沈淪庵居て

く津代乃後りて

化法進退乃間事とて

粗人ふりて

して

うわく

師頼心多し

大廟毎々同し

あひて

回

被會長し

と礼と

と

と

と

養子 乃 被 人 の 身 方 而 々 々 々 一 々
 おり 死 び 人 一 礼 を 許 し せ れ ば 新 年

12

大相國宰相ふさうくわい
てかりりる時今也いま

いふは、
かゝる

子より交わ月を

中より人々を蒙りて夏の月ハナニ花と
 俵を秋のハ谷より知りしやけまは
 俊成のふくみてわたりと大草刈兼

つ
下
う
て
そ
う
入
き
う
う
う
代
後
驗

順^{おの}て一^い月^{げつ}う路^ろち^ちを^をれ^れま^まう^うを^をな^な
 侍^{さむらい}と^と大^{おほ}く^くわ^わさ^さし^しを^をれ^れま^まう^うを^をな^な
 之^{これ}の^の仰^{おほせ}ら^らう^う

さーい、すうや、風、何、を、む、と、い、え、
く、後、く、^{つ、子}、あ、ふ、う、ふ、り

大江山房記
公和方々
な
く
と
り
て
行
年
六
人

中交公是子
 汪衡 賴家 芝也 自珍 祇穿 永 遊 吉
 可江 華長 賴 寶 意長

[illegible]

サー生あゝーとくは中親家ゆゑお件
それのふ人の黨ーとす介悪くわき
とよりーとせあゝーとやすゝぬとーと
あちーとる
佐助の治く治く太をうゆれいといふ日
いゝ元ーとらぬとら車とせれふと下
炭ーとれふとれと中將なりける
男れーとやう

人々をわするも世の人々を
わするもわするも

とー

あちぬふとわめくわめく
れいといふとらなり

けはちを有いつくそとてあんなとくが
とへくさうとさうとやと後親親長
あハかれ口傳くとも

知是院園自忠実忠色 法性寺を印々聖母母大内之系通也

法性寺を印々聖母母大内之系通也
月い留給る内中法川乃とらとせ房れ車
とわーとやうとらとらとらとらとらとら
うーとらとらとらとらとらとらとらとら

[illegible]

やうてそわくろき氣つ脱世かゝつて後秋の
 夕れと櫻らしく出せぬや花で氣裁は覺
 えず終るふつたおてに雲をくまれば一
 こもといふも如くうらなれて人くちあまりわ
 終るをむねあひあうらう太人安ときこゆ
 人陽前とゆふといふ鳴りくるそとあり
 るくお免らとこそをも作しゆくことこ
 るく陽前ある人も花あうらうさやうに
 事やううらうさ屋之又我それ能くとも
 人々ぞうれせし不さうに酒けいめす

人れ一わさ哉やうとせん日侍さる用こ
と人れ也なり参河守老唐々不保乃侍
感歎一侍さるもあつていさるを腹
して侍とてさるはこれよりす和方
かふ願皮一侍とさるもさるをい
尤奇怪也とより好む方とて合へつと
り侍の親と事とよりて却て人れと
ハ腹さるのわらうとさるくさるを
さる人より魔界中くさるさる
一人乃若とてさるす現を要とて

非也但遍照寺より山月とて
りの中花永別ト花人より母の
任人より山月とて花人

月花よりさるさる
この花仲乃懐紙乃茶葉も花定中
細言さるて公は心の出家して花
さる山長谷よりさるさる
さる花永とてさる感歎してさる
欠く花永何人よりさるさる
りさるさるさるさる花永

